森づくり研究成果発表会を終えて

岩田 聡

新型コロナの感染を広げないためにはじっとしているのが一番です。しかし，独房に入れられる，押入，土蔵に入れられるというように，狭い空間にじっとしていることほど辛いものはありません。そこで今や仕事もオンライン，会議もオンライン，講演会もオンラインとオンラインづくしです。北海道森づくり研究成果発表会も，6月1日から30日までの間，オンラインでの開催としました。

今回は，YouTubeを活用した動画配信に挑戦し，プレゼンテーションソフトによるスライド上映に発表者の音声による説明を加えました。

全体の発表成果数は，森林総研，森林管理署，道のDX推進課，林業木材課，森林室から7課題，道総研からは，八坂森林研究本部長の研究成果概要紹介のほか，林業試験場から13課題，林産試験場から17課題で，このうち動画による発表は14課題，そのほかはポスターデータの発表となりました。

動画再生は，のべ3,000回以上あり，1課題あたりを平均すると約220回になりました。オンラインの成果発表会のメリットは，時間・曜日を選ばず視聴できることや見返すことができることです。ただし期待に添えない内容であれば即座に再生は終了します。リアル開催のメリットは，一回限りでありながら，対面によって得られる情報量がかなり大きいことでしょう。例年の来場者数300名程度と比較した場合，その成果を見たい知りたいという目的を持った方には少なくとも情報を届けることができたのではないかと期待まじりに思っています。

各研究成果ごとの再生回数をみると，UAVをはじめスマート林業に関する内容が最も高い注目を集めました。スマート林業は政策としても展開中であり，現場での効率化は大きな関心事であるとうかがえます。

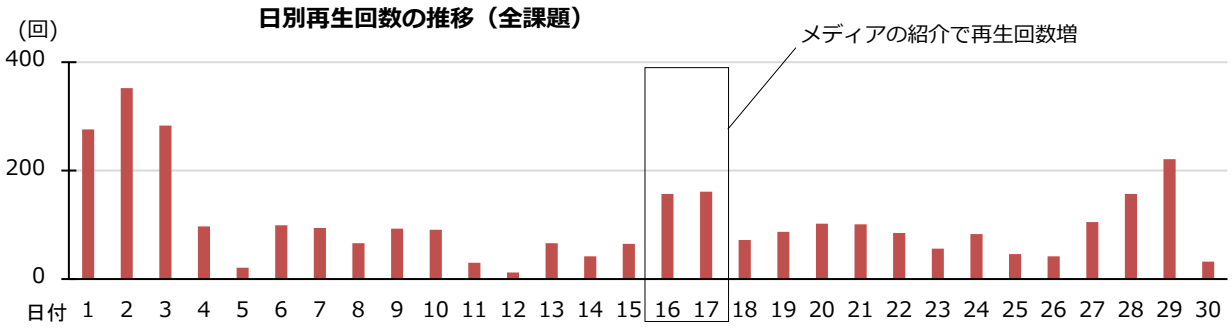
木材利用に関する研究成果は，専門的すぎるかと思ったものの，再生回数は比較的多く，これも最新の技術をおさえたいという関係者のニーズがあると推察しました。

森林の循環利用を学ぶ木育用教材は公開直後より後半に注目が集まり，対面のときほどではないかもしれませんが，質問や逆提案もありました。

また，旭川の情報誌に成果発表会が紹介されると再生回数が増加し，期間中の広報でもアクセスがふやせるオンラインならではの宣伝効果もありました。

今回のオンラインによる成果発表会の再生状況をやや強引に分析すると，企業等はめまぐるしく変化する社会に対応できる新しい技術を求めており，当該分野ではどこまで研究が進んで，どのような課題を抱えているのか情報をつかんでおきたいのだと解釈しました。

試験研究の内容には必ず新しい要素があります。その要素をいかに魅力的なものにするか，その魅力をどのように提供するかが問われています。

（林産試験場長）

主な発表課題	再生回数（回）
UAVとAIを活用した人工林資源推定手法について	358
UAVを活用した山地災害調査の省力化に向けた取組～渓間工調査設計を事例として～	276
森林の循環利用を学ぶ木育用教材の開発	263
カラマツ・トドマツ人工林における風倒害リスク管理技術	259
中高層建築物の外装に木材を使うために	256
道産カラマツCLTの効率的な製造技術と接合技術の開発	254
バイオマスボイラーに使用する木チップ燃料を乾燥する	253
北海道の森林情報オープンデータを現場に持ち出そう！	222
北海道らしいスマート林業の推進	222